

音楽学部生、演奏し祝う

内田名誉教授講演 女子大の必要性訴え

神戸女学院が150周年式典

今月、創立150周年を迎えた神戸女学院(西宮市岡田山)で12日、記念式典が開かれた。大学音楽学部生らのオーケストラ演奏が行われたほか、名誉教授の思想家内田樹氏(75)がキャンパスの魅力や女子大学の必要性などについて講演。OGら約450人が出席し、日本の女子教育の先駆けとして学びの場を築いた歴史をかみしめた。
(金 旻革)

ウインドオーケストラ演奏を披露する神戸女学院大音楽学部生ら＝いずれも西宮市岡田山



神戸女学院創立150周年記念式典で講演する内田樹名誉教授



西宮

神戸女学院は神戸開港後の1873(明治6)年、米国人宣教師が現在の神戸市中央区山本通に移転。建築家ヴォーリスが手がけた建物は2014年に国重要文化財の指定を受けた。

記念式典では賛美歌を斉唱し、飯謙院長が式辞を述べた。母方の曾祖母が女学校1期生という石破茂首相からビデオメッセージが寄せられ、出席者から驚きの声が上がった。その後、音楽学部生らのオーケストラの演奏などがあった。

内田氏は1990年、東京都立大助手から神戸女学院大学文学部助教授に着任。この日は「神戸女学院の擁護と顕彰」をテーマに語った。

校舎にはヴォーリス建築の妙がちりばめられており、学生の小さな声でも拾う設計や画一的ではない間取り、思いも寄らない場所に通じる扉などに感銘を受けたという。「この学校は生きもの。ヴォーリスが設計し、贈ったものは今もリアルタイムで生きている」と述べた。

各地の女子大学で共学化が進む中、神戸女学院大は継続を掲げる。内田氏は女性を保護し、才能の開花を支援する大切さを説き、「女子大がいらないうような世論が形成されているが、そうは思わない。男女平等は実現しておらず、女子教育はなくなっていく」とした。